

# 05

ほうしゃせんしんりょう

放射線診療のスペシャリスト

しんりょうほうしゃせんぎし

診療放射線技師

## おしえて！診療放射線技師のおしごと

診療放射線技師は、病院などの医療施設でレントゲンやCTスキャン、MRIなど医療機器を操作します。医師の指示に従って、治療に必要な患部（病気や傷のある部分）の映像を撮影したり、放射線を当てて治療を行う仕事です。

X線などの放射線は、あつかい方によっては人体に大きな危険をおよぼすため、専門的な知識と技術が不可欠になります。

また最近の医療機器はコンピュータ化が進み、操作方法もより高度で複雑になってきています。そのため、新しい技術や医療機器に対応できるだけの適応力や好奇心、向学心なども必要になります。

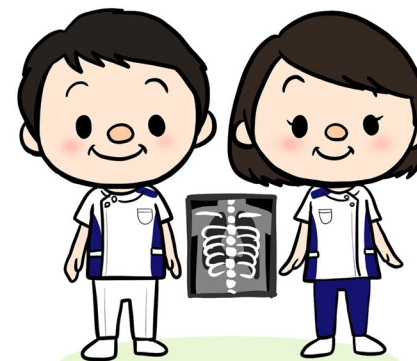
当院は、地域医療支援病院に指定されています。地域医療支援病院は身近な地域で医療を受けることが望ましいという観点から、紹介患者さんに対する医療の提供、医療機器の共同利用などを通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医を支援する役割があります。

当院では連携している医療機関から、治療に限らずCTやMRIなどの検査のみの依頼も受けています。



## どうすれば診療放射線技師になれるの？

診療放射線技師になるためには、高校卒業後、診療放射線技師を養成する専門学校か、養成コースがある短大または大学に進みます。卒業すると、国家試験の受験資格が取れます。合格すれば、放射線科であつかう機器を操作することができますが、マンモグラフィー（乳房エックス線撮影装置）、MRI、放射線治療などには独自の認定資格があり取得者も増えています。当院には26人の診療放射線技師が働いており、女性の放射線技師も多く活躍しています。



### 豆知識

「放射線」ときくと、広島・長崎の原爆や福島の原子力発電所事故による放射線漏れなどをイメージして「怖い」「危ない」と思われる方もいるかもしれませんが、確かに少量の放射線であっても被ばくするため、全くの無害とは言いきれません。しかし、医療現場において放射線は欠かせないものとなっています。医療機関で使用する放射線は、患者さんの治療や診断に応じて線量を設定しています。当院でも放射線検査のガイドライン値を把握し、患者さん一人一人に対して利益とリスクを考えながら放射線治療を行っています。